



Magazine

hat | 橋本総業ホールディングス 2025 VOL.17

第39回テニス日本リーグ決勝トーナメント 女子が2連覇を達成!



決勝トーナメントに出場した3チームのメンバーと橋本政昭会長でピース!

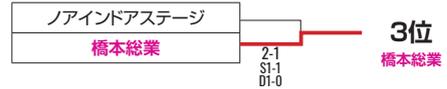
2月14日から16日にわたり、東京体育館で実業団の団体戦「日本リーグ 決勝トーナメント」が開催された。今回も女子2チームと男子1チームが決勝トーナメントに進出し、女子の「橋本総業ホールディングス」が見事連覇を果たした。島津製作所とのライバル対決を制し連覇したチームについて、吉田友佳総監督は、「プレッシャーのある中でしっかり頑張ってくれました。個々に力を付けているメンバーなので、それを出し切れたと思います」と選手をねぎらった。

選手の出場機会を増やすために前回から誕生した「橋本総業」女子チームは、準決勝で島津と対戦し敗れるも、3位決定戦に勝利。男子チームは準々決勝で優勝候補の三菱電機に勝利する大金星を挙げるが、準決勝、3位決定戦で敗れ4位となった。「男子は初戦からレベルが高かった」と言う吉田総監督。「厳しい中でここまで勝ち上がったのは、杉山（記一）さんと（増田）健太郎さんの頑張り、選手がついて行ったからでしょう。満足はしていないと思いますが、会場を沸かせる場面がたくさん見られたので、日本リーグの良さがあったと思います」。それぞれの戦いがあった3チームの勇姿を振り返ろう。

女子決勝トーナメント



3・4位決定戦



男子決勝トーナメント



3・4位決定戦



プレッシャーを乗り越えての優勝

追う立場から追われる立場へ。簡単ではなかった連覇の道のり

「橋本総業ホールディングス」女子チームは優勝候補筆頭だった。前回覇者ということに加えて、ライバルの島津製作所のエースだった本玉真唯が抜けたことで、ランキング的に他チームに勝っていたからだ。前回シングルス2（S2）で出場した岡村恭香は、昨年この時期には世界ランク336位だったが今回はキャリアハイとなる178位にまで上げてS1に。前回のS1の坂詰姫野は、故障の影響もあり初めてS2として出場した。

試合はS2→S1→ダブルスの順番で行われる。坂詰がS2で戦う場合、実力で負ける相手はいない。しかし、島津製作所との決勝戦では、「できるだけプレッシャーなくS1とダブルスに回せるように」との思いが強くなりすぎ、固さが見られ、なかなか実力を発揮できない。それでも今できることを総動員して勝ちに結びつけた。

S1で出場した岡村は、1st、2ndステージでは「最高のパフォーマンスを出せた」が、決勝トーナメントでは「勝ちたい気持ちが強くなって」ミスが重なり、立て直すことができずに敗北を喫した。

勝負がかかった小堀桃子/森崎可南子組は、森崎がパワフルで、小堀はタッチ系が得意という対照的な2人だ。実力はもちろんだが、信頼し合っているのでプレッシャー下でも存分に実力を発揮できたのだろう。1度もリードを許すことなく、優勝まで駆け抜けた。「優勝してうれしい気持ちとほっとした気持ちがあります」と森崎。「全勝という形で貢献できたかと思います」と小堀。2人は最高殊勲選手賞を受賞した。

ツアーの個人戦とは違い社名を背負う団体戦であること、連覇、ランキング下位から挑戦を受ける立場と、多くのプレッシャーがある中で辿り着いた頂点。今後も個々が実力を上げることで連勝を期待されるだろう。その状況を理解しつつ、今回から新監督に就いた小畑沙織さんは、「優勝しましたが、もっと強いチームになれる確信はあるので、またチーム力を上げていきたいです」と、3連覇、4連覇を狙っている。



坂詰姫野は故障から復帰しシングルス2として戦った



キャリアハイ更新中の岡村恭香はシングルス1として出場



小堀桃子（左）と森崎可南子（右）は抜群の安定感で全勝し最高殊勲選手賞を受賞



1st、2ndステージでシングルスに出場した小関みちか



新加入の北原結乃も1stステージで勝利を挙げた

橋本総業ホールディングス 女子結果

| 準決勝 | 橋本総業ホールディングス | 2-1 | ノアインドアステージ |
|------------------|--------------|----------------------|-------------|
| 2月 15日 (土) | S1 | 岡村 恭香 6-4 3-6 [9-11] | 松田 鈴子 |
| | S2 | 坂詰 姫野 6-1 6-0 | 上田 らむ |
| | D | 小堀 桃子/森崎 可南子 6-0 6-4 | 塩谷 夏美/伊藤 日和 |
| 決勝 | 橋本総業ホールディングス | 2-1 | 島津製作所 |
| 16日 (日) | S1 | 岡村 恭香 2-6 4-6 | 加治遥 |
| | S2 | 坂詰 姫野 7-6(3) 7-6(2) | 山崎郁美 |
| | D | 小堀 桃子/森崎 可南子 6-3 6-4 | 桑田 寛子/松本 安莉 |



2年連続5度目の優勝を果たした、橋本総業ホールディングス女子チーム

橋本総業
女子
3位

3位の結果に満足はない

前回と同じ相手に敗れて3位。今回は結果を求めたが、あと一歩及ばず



ベテランの瀬間詠里花はチームいちの気合いで牽引した



大前綾希子は結果が出た後のダブルスでも常に全力でプレー



成長途中の小林ほの香はシングルス2で奮闘



台湾のツァオ チアイーは長身から繰り出すサーブが武器



3位決定戦では瀬間と大前のベテランコンビで勝利を決めた

選手の出場機会を増やすために昨年新設された「橋本総業」女子チーム。ベテランの瀬間詠里花と大前綾希子、若手の小林ほの香と奥脇莉音に、今回は台湾のツァオ チアイーが加わったメンバーを井上明里監督が率いている。前回は初参加で3位、今年も同様に準決勝で島津製作所に敗れて3位となった。

島津とは2ndステージ最終日にも対戦し、その時はシングルス2敗、ダブルス1勝で敗れている。リベンジを狙った決勝トーナメント準決勝では、シングルスは同じカード、ダブルスでは奥脇がケガのため、大前とツァオのペアで臨んだ。S2の小林は第1セットを落とし、第2セットではリードするものの取り切れず。S1の瀬間は気合を全面に出すも勝機を見い出せず、準決勝敗退が決定した。ダブルスでは大前がツァオを引っ張り、若手選手のようにコートを走り回って一矢を報いた。前年よりも実力が近づいていただけに、S2の小林は、「私が取らなくてはいけないことはわかっていた」と、リードした第2セットを取り切れなかったことを悔しがった。

若手を成長させることができるチームでありたいと井上監督は考えており、大会前には合宿も行っている。しかし、日本リーグがあるのは、1年のうちの数カ月のみで、その短期間で選手を伸ばすことは難しい。2ndステージで奥脇とペアを組んだ大前は、「安心して後ろを任せられるようになって

た」と若手の成長を感じているものの、「今年は結果をすごく求めていたので、チーム全員が悔しいと思います」と、みんなの気持ちを代弁した。

試合に出られることに喜びを感じ、仲が良いチームであることは変わらない。しかし、結果はさらに上を目指したいところ。「勝てるチームにしたい」と力強く言う井上監督は、若手、ベテラン、本人も含めてレベルアップが必要だと感じている。目指すのは「橋本総業 HD」対「橋本総業」の頂上対決だ。

| | | 橋本総業 | | 女子結果 | |
|--------------|----|-----------------|----------------|-------------|--|
| 準々決勝 | | 橋本総業 | 2-1 | 明治安田 | |
| 2月14日(土) | S1 | 瀬間 詠里花 | 3-6 6-3 [7-10] | 光崎 楓奈 | |
| | S2 | 小林 ほの香 | 6-2 6-2 | 足立 真美 | |
| | D | 大前 綾希子/ツァオ チアイー | 6-4 7-6 (4) | 清水 里咲/猪瀬 瑞希 | |
| 準決勝 | | 橋本総業 | 1-2 | 島津製作所 | |
| 15日(土) | S1 | 瀬間 詠里花 | 3-6 1-6 | 加治 遥 | |
| | S2 | 小林 ほの香 | 1-6 5-7 | 山崎 郁美 | |
| | D | 大前 綾希子/ツァオ チアイー | 7-5 7-6 (5) | 桑田 寛子/松本 安莉 | |
| 3位決定戦 | | 橋本総業 | 2-1 | ノアインドアステージ | |
| 16日(日) | S1 | ツァオ チアイー | 5-7 4-6 | 松田 鈴子 | |
| | S2 | 小林 ほの香 | 6-4 6-1 | 上田 らむ | |
| | D | 瀬間 詠里花/大前 綾希子 | 6-1 6-3 | 塩谷 夏美/伊藤 日和 | |



2年連続の3位となった「橋本総業」女子チーム

優勝候補を倒してつかんだ4位

前年覇者の三菱電機に勝利！3位決定戦では伊予銀行に敗退



苦しい状況から4位に辿り着いた「橋本総業ホールディングス」男子チーム

今季の男子チームはスタート時点から苦しい状況に立たされていた。新加入のデラニー ジェイクはS1として圧倒的とは言えず、S2として期待されていた福田創楽は故障で1stステージを欠場した。2ndステージが終わった時点で、レッドブロック4位通過となり、決勝トーナメントの初戦で前回優勝の三菱電機と当たる厳しいドロートとなった。

三菱電機とは前回の準決勝で対戦し、その時は0勝3敗で敗れている。三菱はシングルス2本がプロで、当然ながらここが手ごわい。2ndステージから復活した福田が、前回同様に同年代の高橋悠介に挑んだ。「積極的にいく」ことを心掛けて第1セットを奪取。追いつかれて第2セットは失ったが、10ポイントタイブレークでもチャンスで攻める姿勢を貫いて、値千金となる金星を挙げた。

S1は敗れ、勝敗はダブルスに託された。前日には1年前の敗戦から作戦を練ったと言う河内一真と渡邊聖太だったが、その作戦がうまく機能せず第1セットを落とす。試合中に対策を練り直し、リターンを修正したことで確率が上がり、接戦の末にリベンジに成功。優勝候補から勝利をもぎ取った。

男子はどのチームも実力が拮抗しており、三菱を破ったことで優勝の可能性も出てきていた。しかし、準決勝のエキスパートパワーシズオカ戦で、S2の福田が再び勝利を挙げても、あと1勝が届かず。伊予銀行との3位決定戦は勝ちたいところだったが、惜しくも敗れて4位が決まった。杉山記一監督は、「三菱に対しては120%の戦いができました。今日

(3位決定戦)の試合は良くない結果でした。再構築します」と悔しさをにじませる。歓喜と落胆を味わった決勝トーナメントだったが、チームに勢いを与えた福田の活躍は嬉しい。福田自身も「プレッシャーがかかった試合に勝つと自信になります」と、復活途上で手ごたえを感じられたようだ。



シングルス2の福田創楽の勝利がチームに勢いをもたらした



新加入したデラニー ジェイクがシングルス1としてプレー



河内一真は単複で1stステージから戦い続けた



ダブルスでしっかりと力を付けてきた渡邊聖太

橋本総業ホールディングス 男子結果

| 準々決勝 | 橋本総業ホールディングス | 2-1 | 三菱電機 |
|----------|--------------|-------------|-------------------------------|
| 2月14日(土) | S1 | デラニー ジェイク | 3-6 6-7(5) 清水 悠太 |
| | S2 | 福田 創楽 | 6-4 5-7 10-8 高橋 悠介 |
| | D | 渡邊 聖太/河内 一真 | 5-7 6-4 10-7 田中 優之介/丹下 将太 |
| 準決勝 | 橋本総業ホールディングス | 1-2 | エキスパートパワーシズオカ |
| 15日(土) | S1 | デラニー ジェイク | 6-7(5) 4-6 吳 東霖 |
| | S2 | 福田 創楽 | 7-6(3) 6-1 望月 勇希 |
| | D | 渡邊 聖太/河内 一真 | 3-6 2-6 今井 慎太郎/末岡 大和 |
| 3位決定戦 | 橋本総業ホールディングス | 1-2 | 伊予銀行 |
| 16日(日) | S1 | デラニー ジェイク | 7-6(3) 3-6 [10-7] 中川 舜祐 |
| | S2 | 福田 創楽 | 5-7 4-6 片山 翔 |
| | D | 渡邊 聖太/河内 一真 | 6-7(4) 6-3 [6-10] 河野 優平/楠原 悠介 |



初戦で三菱の高橋に勝利した福田が、応援席に向かって歓喜の叫び